

学校における空手道授業の指導成果と課題

井下 佳織, 豊嶋 建広, 橋本 富太郎 (麗澤大学), 岡崎 紀創 (全日本空手道連盟)

本研究は、令和2年度スポーツ庁委託事業 武道等指導充実・資質向上支援事業(指導成果の検証)の成果からまとめたものです。

1. はじめに

令和元年度からスポーツ庁では複数の武道種目を選択して授業を実施する支援事業を新たに始め、27校の中学校がモデル実践校として空手道を実施した。そして令和3年度から中学校で導入される新学習指導要領においては、原則として男女共習で学習することが求められる。

現在、中学校における空手道授業の実施校数は、約10年で急激に増加してきている。しかし、これまで空手道授業に関する具体的な成果や課題を検証した報告はほとんどみられない。今後、空手道授業の実施形態、指導成果や課題の抽出、および実践的研究が必要である。

そこで本研究は、武道種目として空手道授業を実施する上での指導成果と課題を検証し、それらの課題解決策を探ることを目的とした。



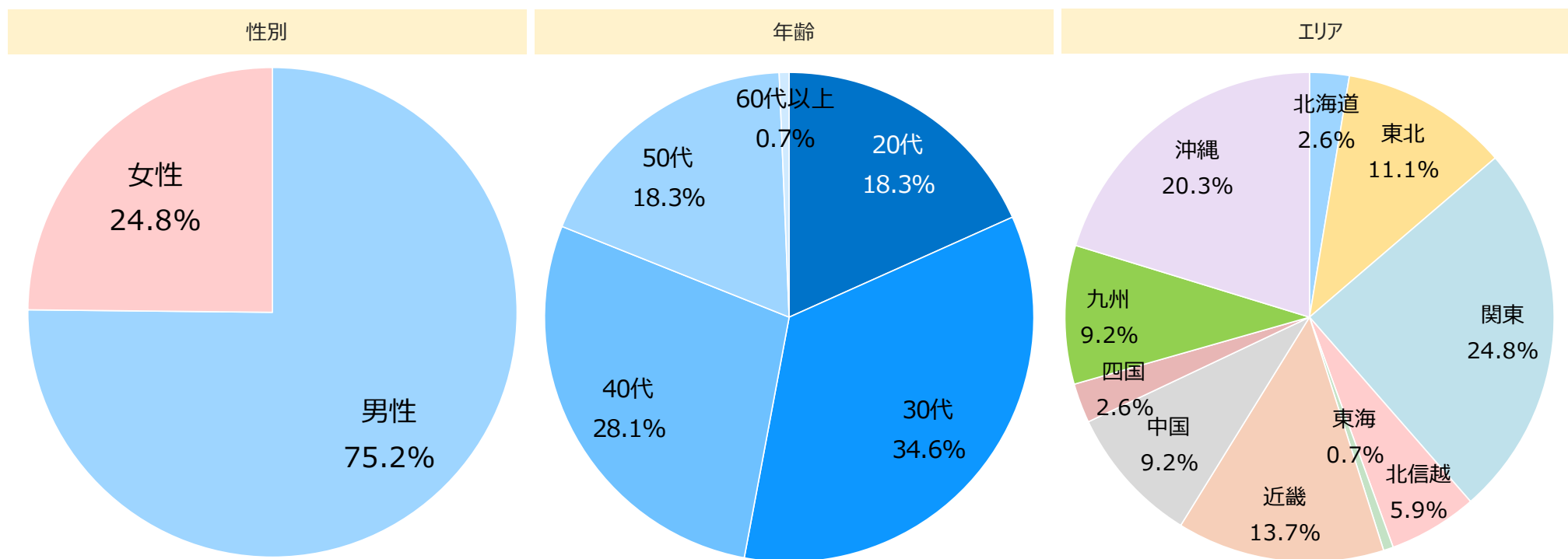
2. 調査方法

教員対象	調査手法	インターネット調査
	調査対象者/ 回答数	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 全日本空手道連盟（全空連）が公表している空手道授業実施校450校の教員 ・調査実施方法 「空手道授業に関するアンケート」への協力依頼を発送 添付QRコード、URLよりアンケートシステムにて質問回答 ・回答数：153校（回収率34%）
	質問数	本調査37問
	調査期間	2021年2月1日（月） - 12日（金）
生徒対象	調査手法	質問紙による調査
	調査対象者/ 回答数	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 空手道授業実施中学校2校の1・2年生および特別支援学級の生徒 ・調査実施方法 1回目の授業終了後に質問紙を配布し、当日下校前に回答を回収した。 ・回答数：362名（回収率100%）
	質問数	21問
	調査期間	2020年9月2日（水）・ 2021年2月11日（木）

3-1. 空手道授業の実施状況 —指導者の属性—

男女の割合は男性が75%と高く、年齢は30～40代が60%以上を占めていた。

回答者の所在エリアは全国にわたっていたが、関東地区と沖縄県の割合がそれぞれ20%以上で高かった。

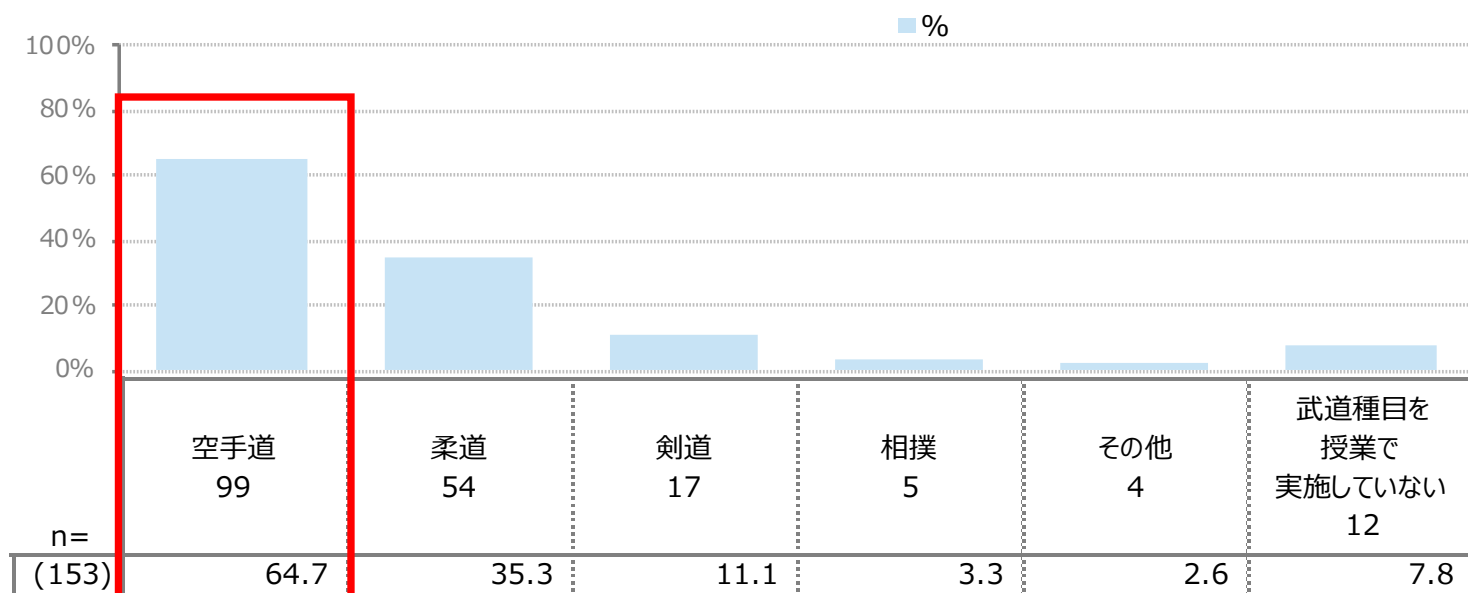


回答者(n=153)

3-2.空手道授業の実施状況 ー実施している武道種目（令和2年度）ー

空手道実施校450校（全空連調べ）に調査依頼し、回答が得られた153校のうち令和2年度に「空手道」の授業を実施していたのは99校（65%）であった。令和2年度に他の武道種目を実施していた54校も過去に「空手道」授業を実施していたと考えられる。

Q7 令和2年度にあなたの学校で授業として実施している武道種目を全てお選びください。

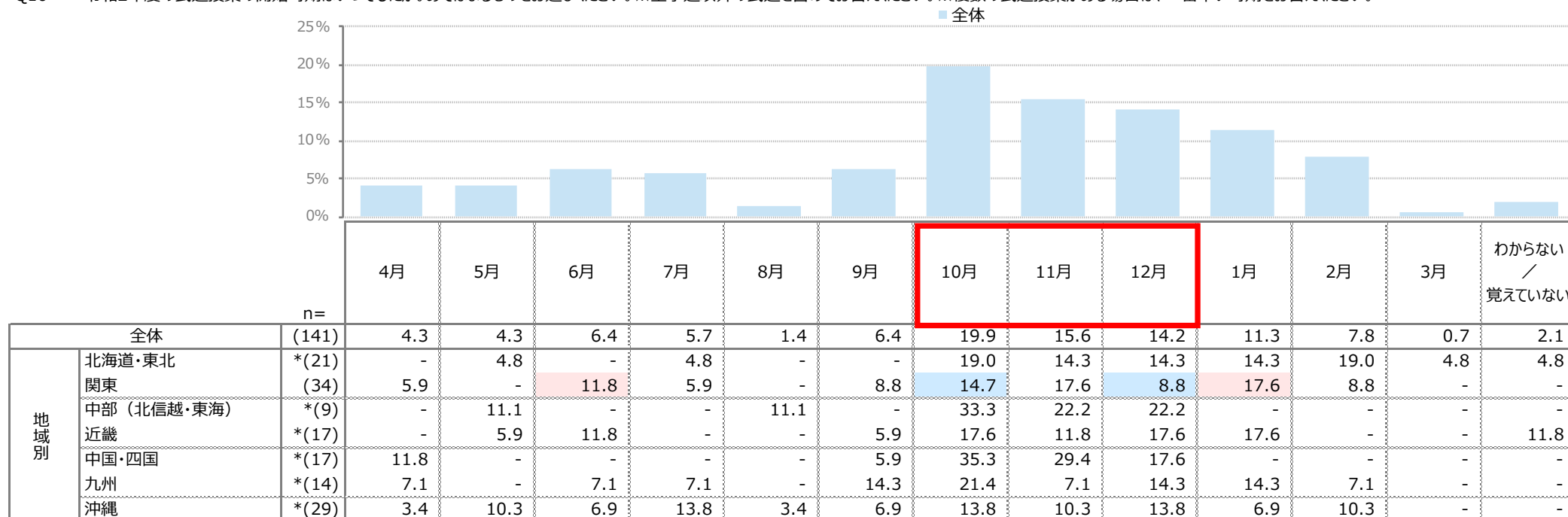


3-4. 空手道授業の実施状況 —授業開始時期—

開始時期は10月が最も高く、次いで11月、12月と2学期に実施している学校が多い。

地域別でも、柔道・剣道・相撲とも同様の傾向だった。これは学校行事（運動会等）や水泳授業などあらかじめ時期が決められている種目との調整によるものと考えられる。

Q10 令和2年度の武道授業の開始時期はいつでしたか。あてはまるものをお選びください。※空手道以外の武道を含めてお答えください。※複数の武道授業がある場合は、一番早い時期をお答えください。



3-5. 空手道授業の実施状況 —指導体制—

3割以上が空手道を専門にしていない教員のみで空手道の授業を実施していた。また約4割が外部指導者と実施している。今後空手道を専門としていない体育の教員がどのように空手道を指導し、どのような支援を必要としているか明らかにする必要がある。

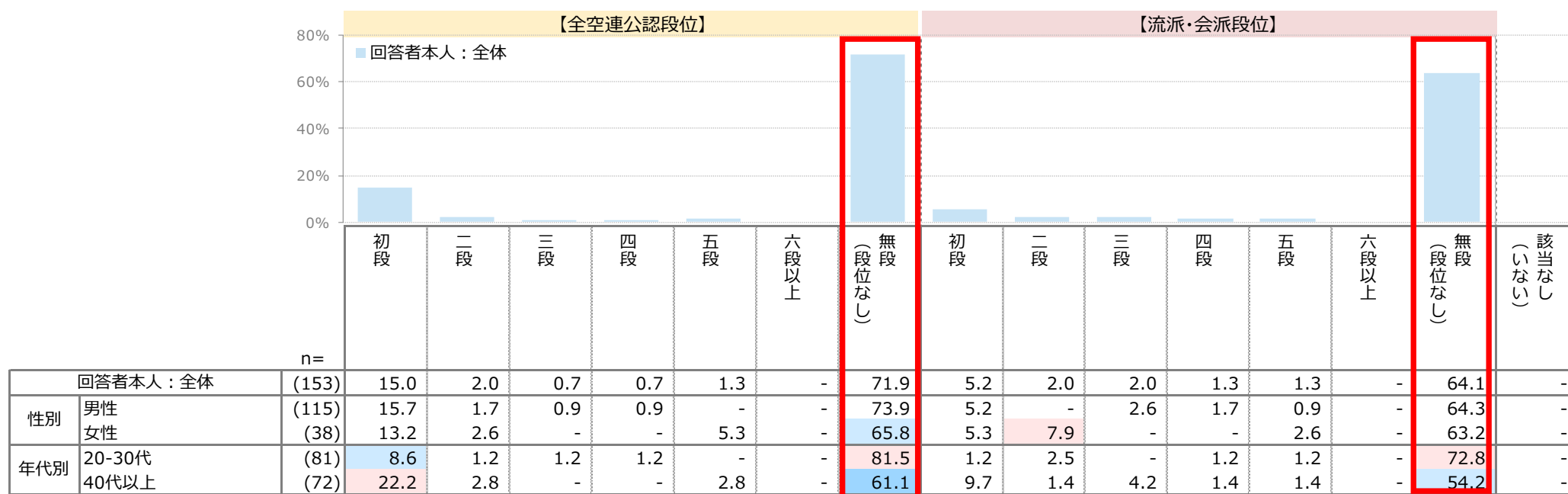
Q12. 学校での空手道授業の指導体制について、あてはまるものをお選びください。【単一回答】

	n	%
全体	(99)	
保健体育科教員（空手道が専門種目）と保健体育科教員（空手道以外が専門種目）で授業を実施	8	8.1
保健体育科教員（空手道が専門種目）で実施	8	8.1
保健体育科教員（空手道以外が専門種目）で実施	32	32.3
保健体育科教員と他教科の教員（管理職を含む）で実施	6	6.1
保健体育科教員と外部指導者が協力して実施	39	39.4
その他	6	6.1

3-6. 空手道授業の実施状況 —指導している教員の段位—

「段位なし」は、全空連公認段位で約72%、流派・会派段位で約64%であった。また段位取得状況は全空連公認段位が約15%、流派・会派段位は約5%であった。沖縄県の回答者の約35%が全空連公認段位取得者であった。今回の調査では、「段位なし」と回答した人がそのまま空手道の授業を指導しているとはいえないが、3割以上が空手道を専門にしていない教員のみで空手道の授業を実施していると考えられた。今後それらの教員がどのように空手道を指導し、どのような支援を必要としているか明らかにする必要がある。

Q5. 空手道授業を指導されている先生の段位取得状況について、あてはまるものを全てお選びください。指導されている先生が複数名いる場合は、2人目まであてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

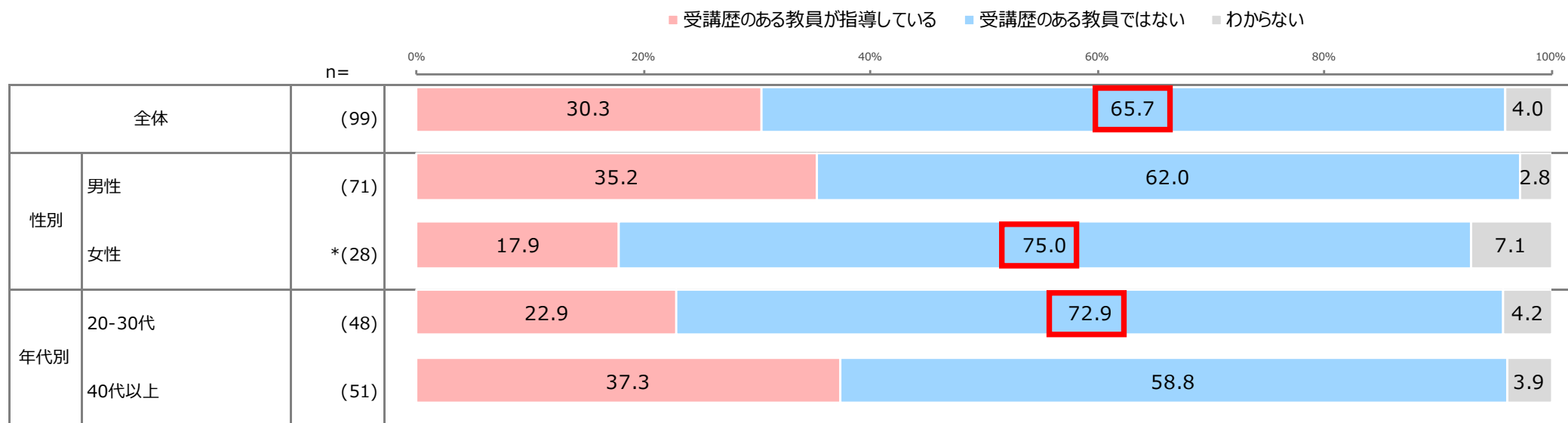


3-7. 空手道授業の実施状況 — 「学校武道のための研修」受講歴—

全国空手道指導者研修会（日本武道館・全空連主催）の受講歴を有する教員は3割程度であった。当研修は、12年間毎年8月に日本空手道会館（東京都）において3日間（参加費・交通費・宿泊費無料）で、研修会中に段位審査会も行われているが、研修の受講歴が30%と低い割合にとどまった。

男女別では男性の受講率35%に対して女性は18%で、女性・年代別では20-30代の教員は受講率が低い傾向にある。研修に参加しない、あるいは参加できない理由を今後明らかにし、より研修会への参加者を増やすためには、一部オンライン研修導入や研修期間の短縮等を模索する必要がある。

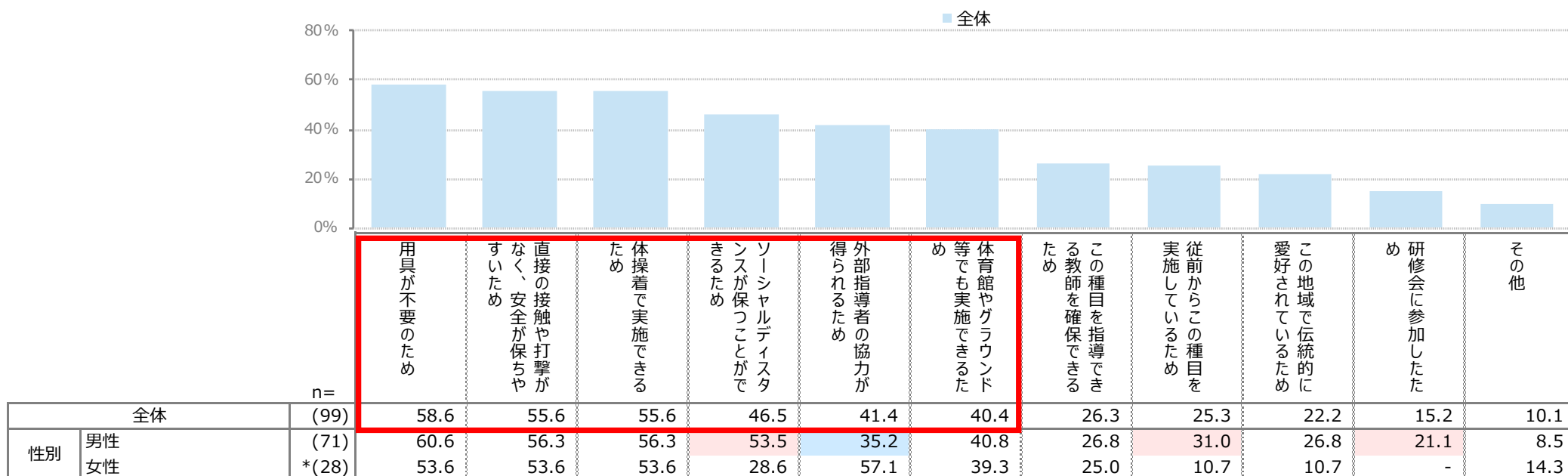
Q18. 学校の空手道授業の実施状況についてお伺いします。全日本空手道連盟主催の「学校武道のための研修」受講歴を持った教員が指導していますか。【単一回答】



4-1. 授業の実施形態 —空手道を選択した理由—

空手道の選択理由としては、「用具が不要」「直接の接触や打撃がなく、安全が保ちやすい」「体操着で実施できる」が55%以上と高く、授業運営のしやすさが明らかとなった。またコロナ禍のため「ソーシャルディスタンスを保つことができる」も約50%、次いで「外部指導者の協力が得られるため」「体育館やグラウンドで実施できる」は約40%が回答しており、空手道授業実施場所の質問では82%が体育館で実施していた。

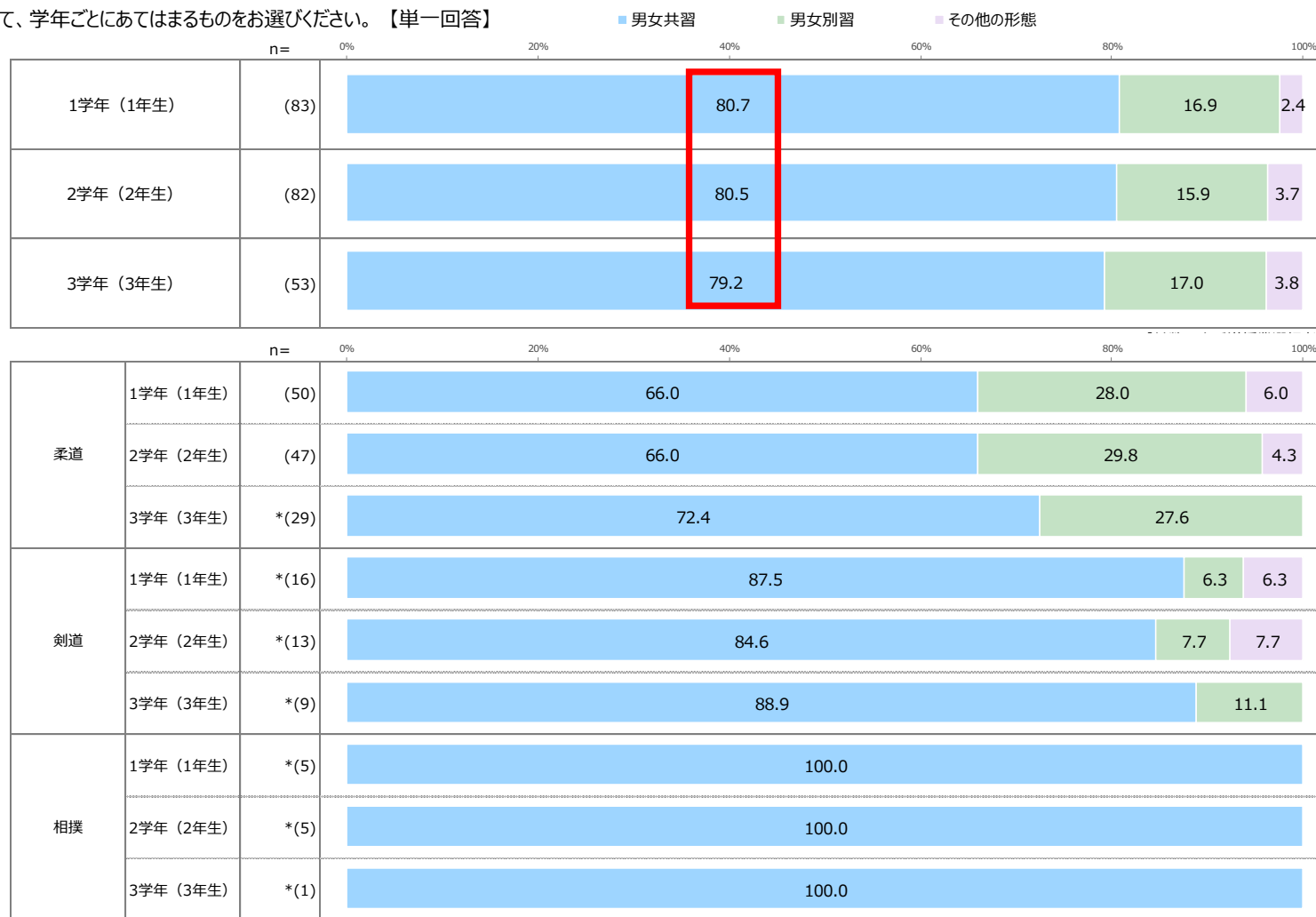
Q11. 学校の武道授業の種目で「空手道」が選ばれた理由について、以下の中からあてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



4-2. 授業の実施形態 —男女共習—

空手道の授業形態では、1～3年生とも約80%、柔道、剣道でも同じ傾向にあったが、相撲では100%男女共習で実施されていた。

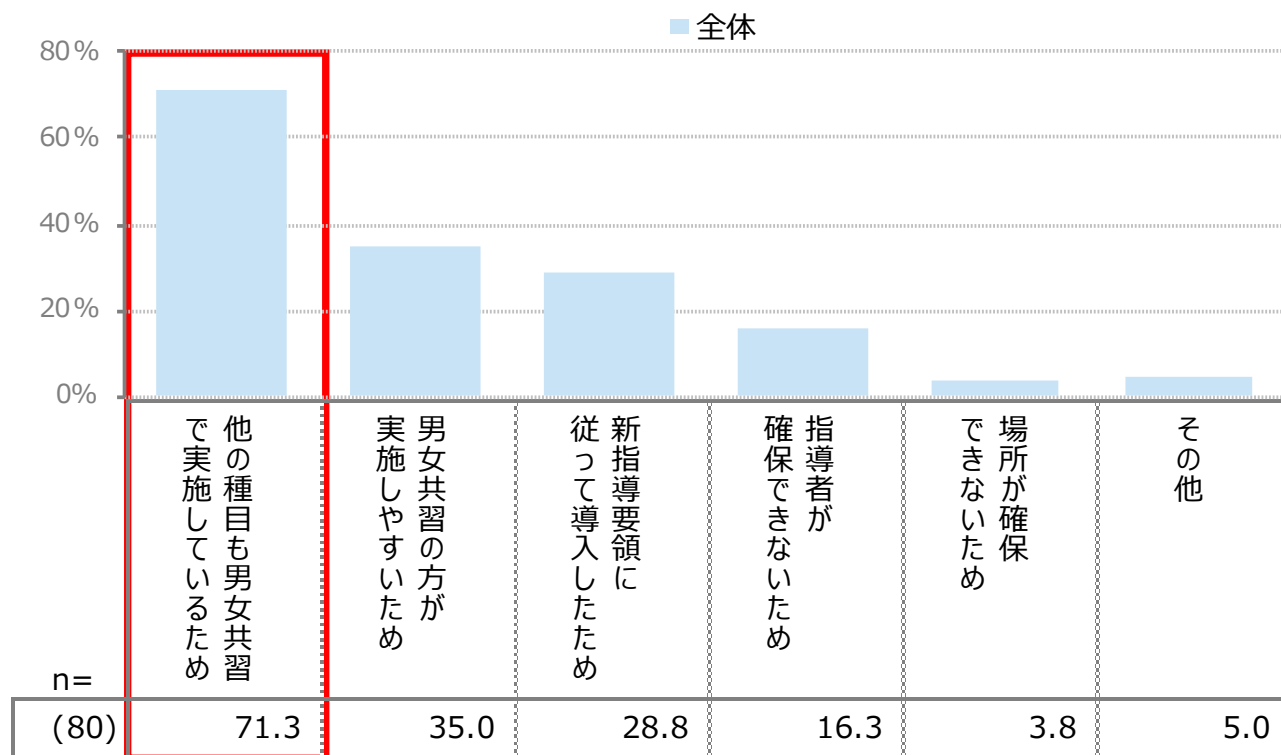
Q13. 学校での空手道授業の形態について、学年ごとにあてはまるものをお選びください。【単一回答】



4-3. 授業の実施形態 —男女共習実施理由—

男女共習の実施理由は、「他の種目も男女共習で実施」が約70%を占めた。次いで「実施しやすいため」は約35%、「新指導要領に従って」が30%であったが、接触がない「形」の指導を中心に実施できることや、「約束組手」においても直接の接触なしに実施できるという空手道の強みを示していると考えられる。

Q14. 空手道の授業を男女共習で実施されているとお答えの方にお伺いします。男女共習で実施している理由について、以下の中からあてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

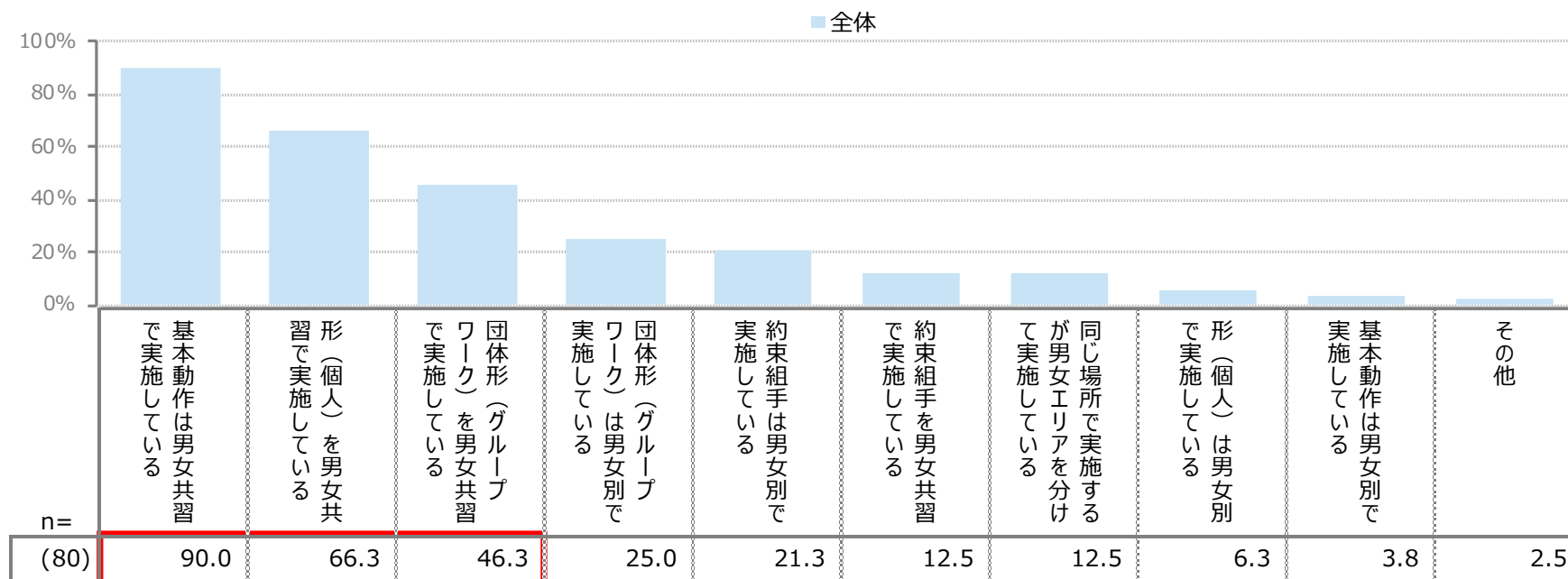


4-4. 授業の実施形態 —男女教習での授業実施時の工夫—

男女共習実施の内容は「基本動作」が90%、「形（個人）」が66%と高く「基本動作」や「形（個人）」が男女共習で実施しやすいことが伺える。「団体形（グループワーク）」は約46%が共習で実施しているのに対して、25%が男女別で実施していた。

約束組手は、「男女共習で実施している」（約13%）よりも「男女別で実施」（約21%）が多い傾向を示した。これは体力差などから安全管理・ケガ予防のためと考えられる。また約束組手の実施率は「男女共習」「男女別」を合わせても約3割と低く、これは時間数や指導能力の問題等と考えられる。

Q15.引き続き、空手道の授業を男女共習で実施されているとお答えの方にお伺いします。男女共習はどのような方法（工夫していること）で実施していますか。【複数回答】

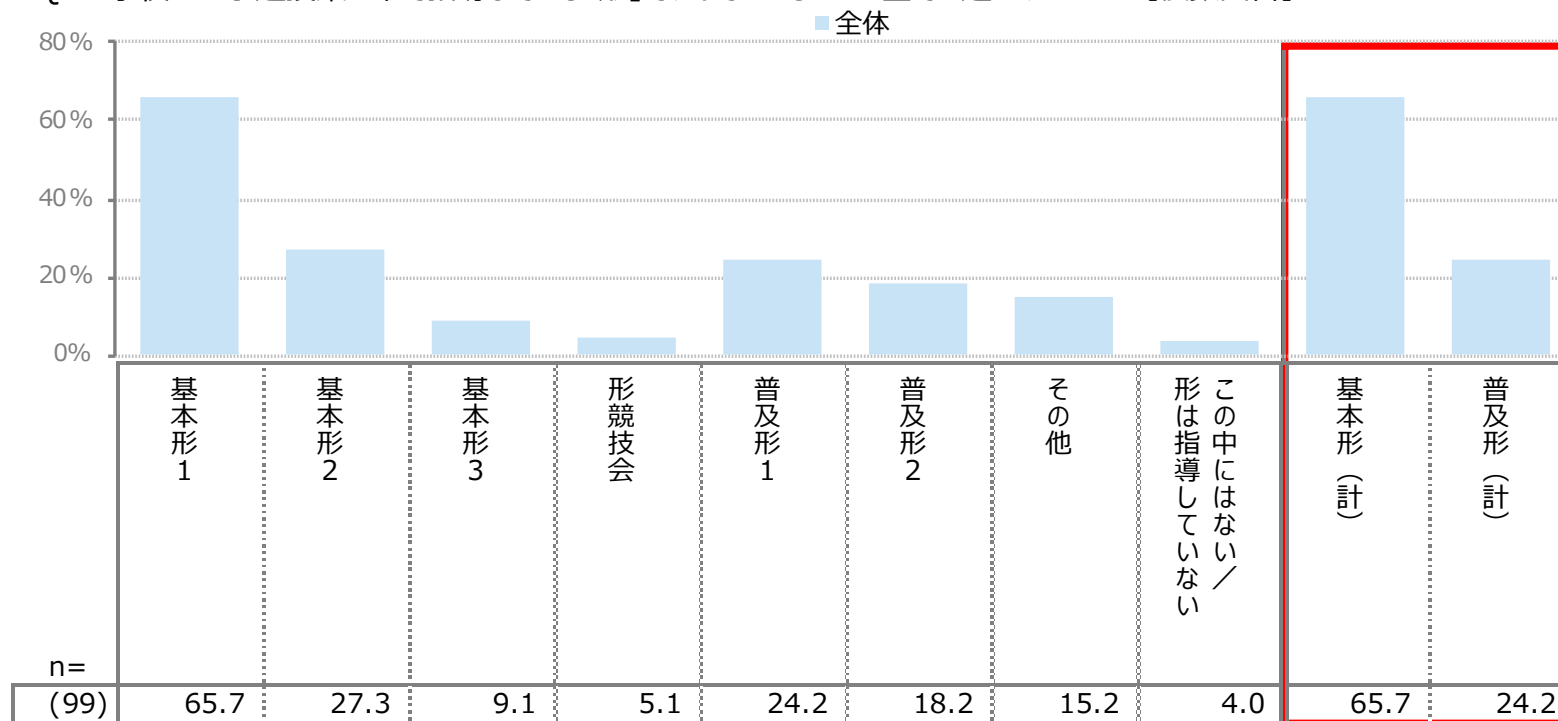


5-1. 空手道授業の内容 —基本動作・形—

基本動作では「立ち方」「拳の握り方」「上段・中段・下段受け」、「中段突き」、「移動（足運び）」は80%～98%、「蹴り技」では、「前蹴り（79%）」、「回し蹴り（16%）」、「横蹴り（11%）」の指導内容だった。

形の指導は全空連の基本形と沖縄県を中心に指導されている普及型を合わせると約90%に及ぶ。

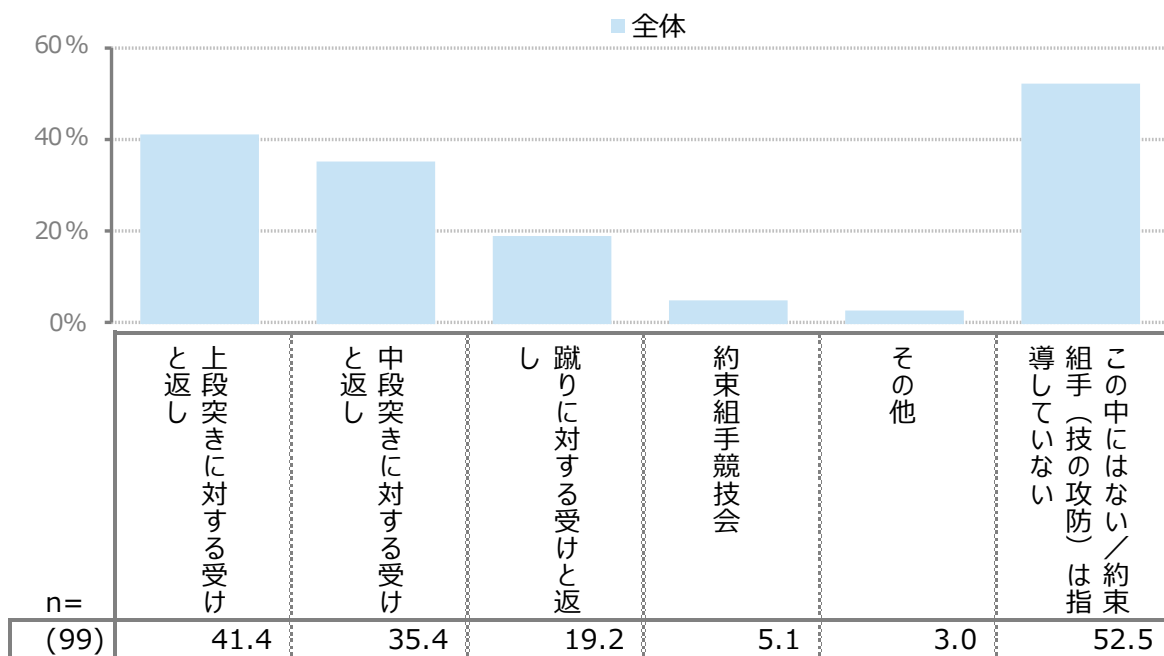
Q31. 学校の空手道授業の中で指導している「形」で、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



5-2. 空手道授業の内容 — 約束組手 —

また約束組手を指導していない学校は約半数で、その理由としては「授業時間数の問題（約44%）」や「指導者の指導力の問題（約31%）」であることが明らかとなった。

空手道授業の中で指導している「約束組手（技の攻防）」



指導していない理由

理由	割合 (%)
指導書・DVDの問題	-
指導者の指導力の問題	30.8
生徒の関心・意欲の問題	9.6
授業時間数等の年間指導計画の問題	44.2
施設・設備の問題	-
用具の問題	9.6
その他	28.8

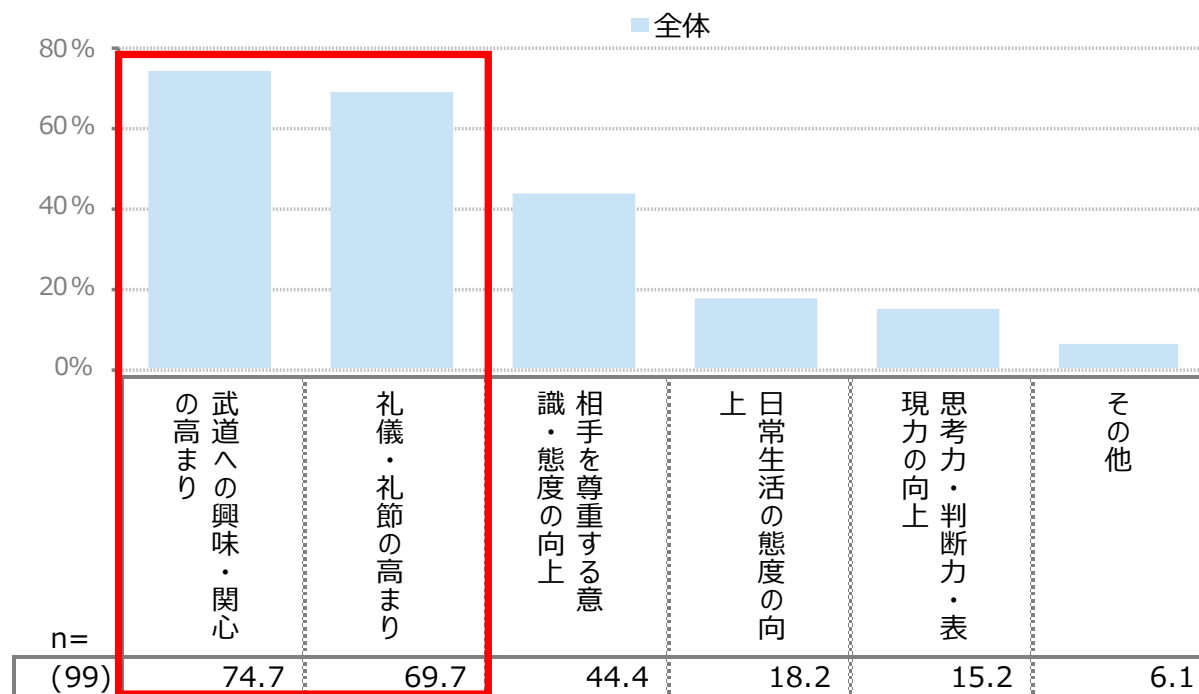
全体 (n=52)

【基数：「約束組手」非指導者】

6-1. 空手道授業における指導の成果 —生徒の変化—

指導の成果として生徒にみられた変化では「武道への興味・関心」が約75%、「礼儀・礼節」の高まりが70%と高く、次いで「相手を尊重する意識・態度の向上」が約44%であったが、「日常生活の態度」や「思考力・判断力・表現力」の向上が低い結果となった。課題としては、「礼儀・礼節の高まり」を「日常生活の態度の向上」へと繋げること。また複数種目として短い時間数で実施するときのために、「基本動作」「形」の学習においても「思考力・判断力・表現力」が向上するように指導内容を工夫する必要がある。

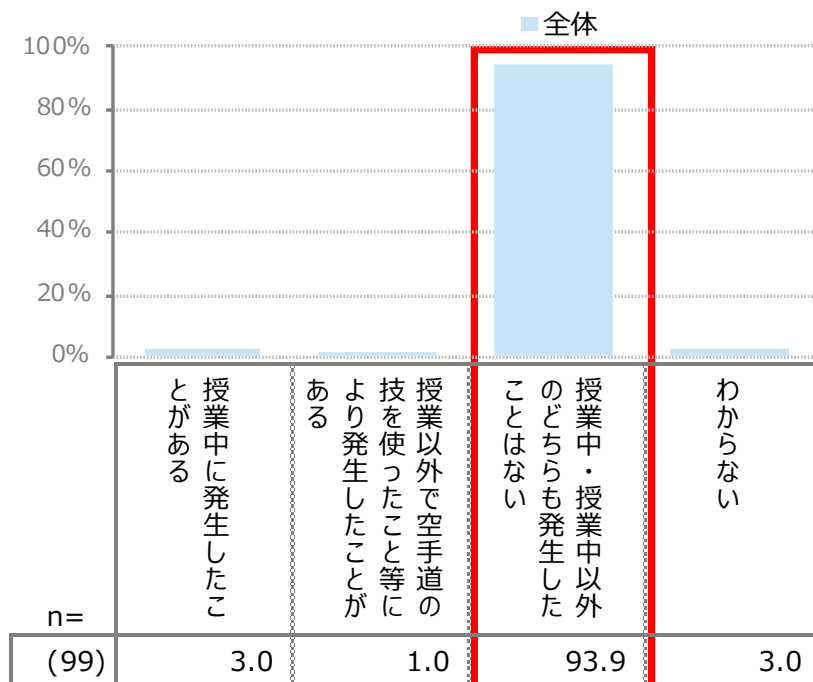
Q25. 学校の空手道授業を実施することで、生徒にはどのような変化がみられましたか。あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



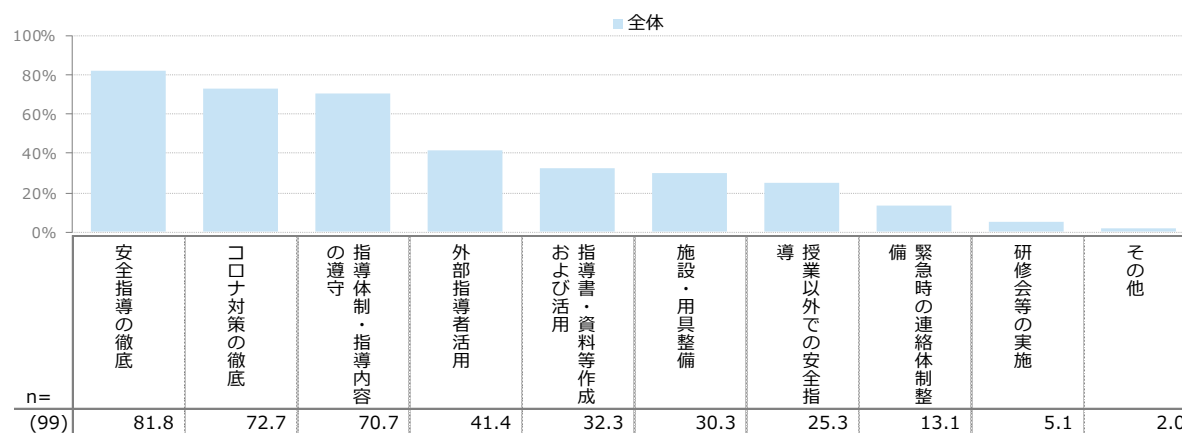
6-2. 空手道授業における指導の成果 —安全対策とケガの予防—

授業内外でケガの発生したことがないのは94%と極めて高く、ケガの発生例は軽症の4件であった。これは「基本動作・形」において個人やグループで一定の距離を保って実施可能なこと、「約束組手」の攻防技でも接触なく実施できることに起因していると考えられる。さらに、多くの指導者が「安全指導の徹底」や「指導体制・指導内容の遵守」に取り組んでおり、該当年度はコロナ禍での授業において「コロナ対策の徹底」が8割に及んだ。

Q20.令和2年度に学校の空手道授業の中あるいは、授業以外の休み時間等で、空手道によるケガは発生したことはありますか。【複数回答】



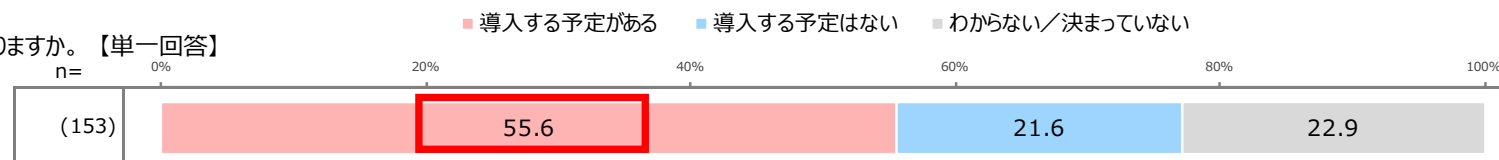
Q23.学校の空手道授業について、どのような安全対策の取り組みをしていますか（してきましたか）。あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



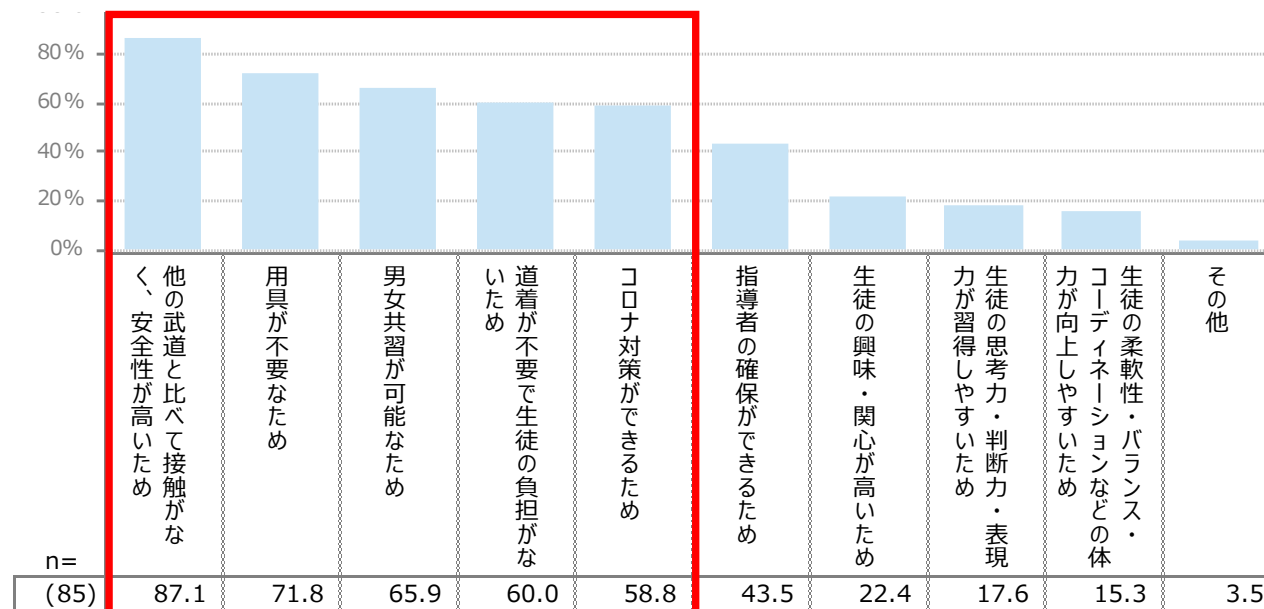
7-1. 今後の課題 一次年度空手道授業の導入予定一

次年度以降の空手道授業導入に関しては153校の回答者の6割（56%）が「予定」があると回答している。「導入予定の理由」においては、「思考力・判断力・表現力の習得」や「体力の向上」などの効果の面よりも「安全性が高い」「用具が不要」「男女共習が可能」「道着不要」等の授業の実施しやすさが評価されていた。今後は「効果の面」でも評価されるように指導内容を工夫することが課題となる。

Q35.次年度以降も空手道を授業に導入する予定はありますか。【単一回答】



Q36.前問で、次年度以降も空手道を授業に導入する予定がある、と回答した方にお伺いします。導入する理由について、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】



7-2. 今後の課題 一次年度空手道授業を導入しない理由一

「導入しない理由」としては、「指導力に不安がある（61%）」「指導者の確保ができない（82%）」といった指導者の課題が高い割合でみられた。今後、授業協力者の確保とともに空手道を専門としない教員が研修会に参加しやすいように工夫することや研修内容および教材の質をより高めていくことが課題となる。

Q37.前問で、次年度以降に空手道を授業に導入する予定がない、と回答した方にお伺いします。導入しない理由について、あてはまるものを全てお選びください。【複数回答】

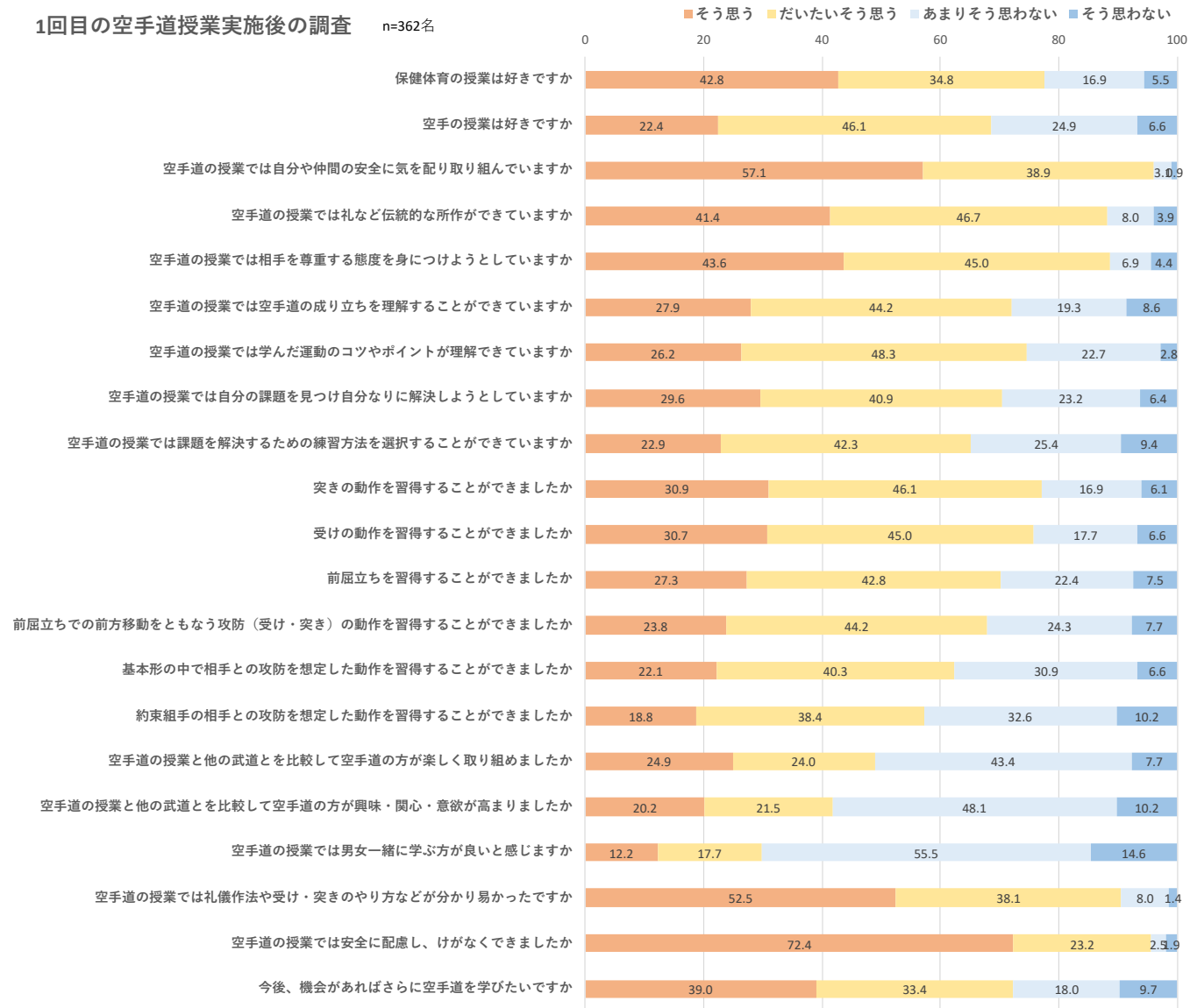
	全体 (n=33)
他の武道と比べて危険と考えられるため	3.0
生徒の興味・関心が低い	6.1
生徒の思考力・判断力・表現力が 習得しにくい	-
生徒の運動量が確保しにくい	9.1
指導力に不安があるため	60.6
指導者の確保ができないため	81.8
コロナ対策ができないため	9.1
生徒の実態を考慮したため	27.3
その他	12.1

7-3. 今後の課題 —1時間目の男女共習による空手道授業の調査—

2つの中学校において男女共習で実施した1時間目の授業後に調査を実施した。指導内容は、礼法、空手道の動作を用いた体づくり運動（ストレッチと体力トレーニング）、基本の立ち方、上段・中段・下段受け、中段突き、前進しながらの受け・突き、前蹴り、約束組手、新聞紙を用いて突きで穴を開ける課題等とした。なお感染予防のため、体育館で2m以上の距離を保つように工夫し、発声は無しで実施した。

- ◆ 90%以上の生徒が「礼法や基本動作のわかりやすさ」「安全にケガなくできた」で「そう思う・だいたいそう思う」と回答した。「空手道に対する興味・関心」「礼儀・礼節」「相手を尊重する意識・態度」「課題解決能力や工夫」においては、学習効果を実感していた生徒は70%と高い割合だった。
- ◆ 学習内容では、「突き・受け」の基本動作だけでなく、「移動をともなう攻防動作」「相手との攻防を想定した動作」等でも5割以上が習得できたと回答したことから、1回の授業でも学習効果は得られる可能性が示された。しかし、「他の武道より楽しく取り組めた」は約5割、「他の武道よりも興味・関心・意欲が高まった」は約4割にとどまっており、これは1回のみでの授業後の調査だったことが影響していると考えられる。
- ◆ 男女共習による実施については、7割の生徒が男女共習を希望していないということが明らかになった。

1回目の空手道授業実施後の調査 n=362名



8. まとめ ー空手道授業を実施する上での指導成果と課題ー

空手道授業の実施状況

- 本調査対象（回答：153校）で年間平均時間数は約7時間（各学年共通）、1-5時間の少ない時間数で実施している学校も2割程度あった。
- 指導体制では、**段位取得者は少なく**（「全空連公認段位・取流派会派段位取得者」が2割・1割にとどまる）、**3割以上が空手道を専門にしていない教員のみで実施していた**。また「学校武道のための空手道研修」の受講歴は**わずか3割程度**で、特に女性や20-30代の指導者で低い傾向となった。

空手道授業の実施形態

- 選んだ理由は、「**用具が不要**」「**体操着でもできる**」から“**授業が運営しやすい**”、また「**接触・打撃が少なく**」「**ソーシャルディスタンス**」による“**安全性**”が保ちやすい。
- 授業形態は、**全体の約8割が「男女共習**」、他の武道種目でも同様の傾向で、実施理由も7割が「他の種目も男女共習だから」をあげていた。
- 「**実施しやすい**」という理由は**35%**だった一方、「**新学習指導要領に従って**」「**指導者が確保できない**」ことも男女共習を実施する理由であった。

空手道授業の内容・成果

- 授業（指導）内容は、「**基本動作・受け技・突き技（99%）**」「**形（96%）**」「**蹴り技（80%）**」「**約束組手（48%）**」であった。
↳ 蹴り技・約束組手の指導を行っていない学校では「**授業時間の問題（44%）**」「**指導力の問題（31%）**」を理由にあげていた。
- 指導成果としては「**武道への興味・関心**」「**礼儀・礼節の高まり**」などが70%以上、「**相手を尊重する意識・態度の向上**」が44%であった。
↳ 「**日常生活の態度の変化**」「**思考力・判断力・表現力**」などの成果は少なかった。
- **9割以上の生徒が「礼法のわかりやすさ」「安全性」で肯定的評価であった**。また70%の生徒が「**武道への興味・関心**」「**礼儀・礼節**」「**相手を尊重する意識・態度**」「**課題解決能力や工夫**」で学習効果を実感していた。また、“**男女共習**”を希望していない生徒が多かった（70%）。

●今後の課題

- 指導にあたって、「**安全指導／コロナ対策の徹底**」をしながら、「**指導体制・指導内容を遵守**」した結果、**空手道授業によるケガの発生率は3%**と極めて低かった。
- 空手道の**次年度以降の授業導入は約6割ほどが「予定がある（56%）」**と回答、「**導入予定なし**」と「**未定**」がそれぞれ約2割ほどであった。
- 導入に前向き（予定あり）な理由として、「**他の武道よりも安全**」「**用具が不要**」「**男女共習**」といった“**実施のしやすさ**”があげられていた。
- 導入しない学校では、その理由として「**指導者確保・指導力不足**」といった“**指導者の問題**”があげられていた。
 - 授業導入は、「**実施のしやすさ**」と「**安全性**」が**メリット**になっており、実際にケガの発生率も極めて少ないことが今回の調査で明確になった。
 - 男女共習で実施するや約束組手を指導していない理由は“**指導者の問題**”（確保・指導力不足）で仕方なくという側面もあったことから**指導者へのフォロー体制強化**（研修により参加しやすくなるよう実施方法と質の向上を模索・教材との充実・外部指導者のためのネットワーク構築と資質の向上など）で“**指導体制の不安**”を取り除くことが必要である。
 - 指導の効果として「**課題解決**」「**礼儀・礼節を日常生活の態度の向上**」「**思考力・判断力・表現力や体力面の向上**」へつながる指導が必要である。